

奈良時代の遺物としては圧倒的に土師器が多いですが、わずかながら須恵器が出土しています。土師器の焼成失敗品を多く含む廃棄土坑から出土したこともあり、生産される土師器と持ち込まれ使用した須恵器と一緒に廃棄していたことがわかります。



長頸壺 (口部)



長頸壺 (頸部)

〈平安時代〉約1200年前～1000年前

小社遺跡からは平安時代の建物や遺構が確認されたのはわずかでした。2区にある土坑3から平安時代の甕が出土しており、廃棄されたものである可能性があります。中世の遺構・遺物が見つからなかったことから、平安以降に一度人が生活しなくなった時期があるようです。



土坑3 甕出土状況



土坑3出土 甕

〈近世〉約400年前～

近世の遺構には溝が見られます。この溝は畑などの区割りのために掘られたものと考えられ、溝からは近世の瓦や陶磁器類が出土しています。戦後には畑地として利用されていたと伝えられています。以降は土地の利用はなく林野となっていました。昔から長い時代にわたり人びとが住居を造り住んでいたこの地は令和になり再び人々が暮らす場所となりました。



椀



鍋蓋



瓦

〈そのほかの遺物〉



銭貨 (寛永通宝)



鉄さい (年代不明)



子牛の頭骨 (年代不明)

明和町文化財解説シート

こやしろ

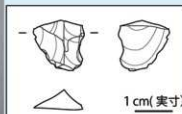
新発見 小社遺跡と明和町の歴史 ～資料紹介～

小社遺跡では様々な時代の遺物が出土し、そこからは当時の暮らしなどを知ることができます。

〈旧石器時代〉約34000年前～13000年前



石材 石刃 ナイフ形石器 (全てチャート)
なんぶきせりょうち



ナイフ形石器 (チャート) 実測図
びこうち



石刃核 (チャート) 石刃 (サヌカイト) (R5, 北野遺跡)
きたの

明和町内には南部丘陵地とそこから北に続く微高地には旧石器時代の遺跡が多く分布しており、北野遺跡へばら地区は多くの旧石器時代の石器が出土している遺跡です。同じ台地上にある小社遺跡からもチャート製の石刃とよばれる剥片、石刃を加工して作られたナイフ形石器の欠片などが出土しました。この場で石器を作っていたことから一時的に滞在したキャンプ地であったと推測されます。

〈縄文時代〉約1300年前～2300年前



打製石核 (サヌカイト製)

小社遺跡では縄文時代の竪穴建物などの遺構が確認されていますが、石器類の遺物が確認されています。小社遺跡では表採資料として石核が採取されました。遺物の量が少なく、ムラのような生活の場としてではなく、狩猟の場であったと考えられます。

〈弥生時代〉約2300年前～1700年前



有茎磨製石核 (片岩製)



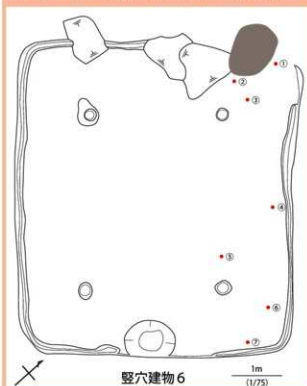
石包丁 (片岩製) (H24, 仲畑遺跡)



石包丁 (複製)

小社遺跡の調査では弥生時代の遺構が確認され、弥生土器も多く出土しました。弥生時代の石器として有茎の磨製石核が採取されました。また北隣に位置する仲畑遺跡での調査では稲穂を摘み取る際に使われる石包丁が出土しています。石材には平たい欠片を作りやすい片岩を使用しています。

弥生時代の竪穴建物からは弥生時代後期の弥生土器が出土しています。2区の竪穴建物6では壺や器台などの器種が確認されました。



①器台



②ミニチュア土器 (高杯)



③器台



④壺



⑤器台



⑥高杯



⑦器台

〈古墳時代〉約 1700 年前～ 1400 年前

古墳時代の遺構として、古墳が3基確認されました。古墳の周りを通る周溝から出土した須恵器の形を調べると、古墳時代後期にあたる6世紀後半のものとなります。新たな古墳群の発見となりました。



1号墳・2号墳の周溝



壺 (2号墳周溝)



壺か (2号墳周溝)



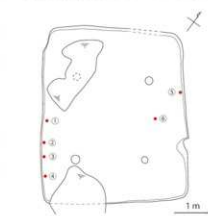
杯蓋 (1号墳周溝)

〈奈良時代〉約1300年前～1200年前

奈良時代の遺構には竪穴建物、土師器焼成坑などがあります。竪穴建物4からは壁際に並ぶような状態で土師器甕が出土しました。



①甕



竪穴建物4



竪穴建物4 発出土状況



④甕



⑤甕



⑥甕

土師器焼成坑や周辺の土坑からは生産された土師器や廃棄された焼成失敗品などが多く出土しました。



剥離した焼成失敗品



杯と蓋

土師器焼成坑1



1区土坑1出土 甕



1区土坑1 廃棄土器出土状況